

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名 : セラグリップキット 骨材
 会社名 : 美州興産株式会社
 住所 : 名古屋市東区名駅南 1-17-28
 担当部門 : 技術部
 電話番号 : 052-771-6141
 F A X 番号 : 052-771-6252

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性 皮膚腐食性/刺激性 区分3
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1
 発がん性 区分1
 特定標的臓器毒性(単回ばく露)区分3 (気道刺激性)
 特定標的臓器毒性(反復ばく露)区分1 (呼吸器系、免疫系、腎臓)
 上記で記載が無い危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 軽度の皮膚刺激
 重篤な眼の損傷
 発がんのおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ(気道刺激性)
 長期にわたる、または反復ばく露により臓器の障害(呼吸器系、免疫系、腎臓)

注意書き

安全対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 粉じん/ヒュームを吸入しないこと。
 粉じん/ヒュームの吸入を避けること。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 取扱い後はよく目を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 必要に応じ保護手袋、保護眼鏡(普通型眼鏡、側板付き普通型眼鏡、ゴーグル型等)、
 保護衣、保護面を着用すること。

応急処置 : 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で優しく洗うこと。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて
 容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はその懸念がある場合: 医師の診察/手当を受けること。
 直ちに医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当を受けること

皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察/手当を受けること。

保管：水濡れに注意し、屋内に保管すること。

廃棄：内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS番号	PRTR法
		化審法	安衛法		
シリカ	6.5～7.5%	1-548	165-2	7631-86-9	—
酸化アルミニウム	1.5～2.5%	1-23	189	1344-28-1	—
酸化鉄	1～5%	1-357	192	1309-37-1	—
酸化チタン	0～1%	1-558	191	13463-67-7	—

4. 応急措置

吸入した場合：多量の場合は直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸に異常がある場合は直ちに医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合：流水で十分に洗い流す。
痛みや炎症が認められたときは速やかに医師の手当てを受ける。

眼に入った場合：こすらないで直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。
瞼の裏まで完全に洗浄する。
眼球を傷つける可能性があるのでこすらない。
医師の手当、診察を受けること。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合：きれいな水で口の中をよく洗う。
医師の手当、診断を受けること。
嘔吐が自然に生じたときは、気道への吸入が起きないように頭を横向きにする。

応急措置をする者の保護：救助者が有害物に触れないようゴム手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。
汚染された衣類や保護具を取り除く。

医師に対する特別注意事項：直ちに医師の診断を受け、この容器のラベルに記載された注意事項又はSDSを示す。
予想される急性症状及び遅発性症状：吸入 咳 眼 発赤

5. 火災時の措置

消火剤：不燃性。周辺の火災に適応した消化剤を使用する。
包装が燃えた場合は一般的な消火方法でよい。

使ってはならない消化剤：特になし。

特有の危険有害性：危険でなければ火災地区から容器等を移動する。

特有の消火方法：火災場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止にする。
周辺火災の場合、移動可能な梱包袋等容器は速やかに安全な場所に移す。

消火を行う者の保護：消火を行う者は、完全な防護服を着用する。
消火は風上から行い、煙・燃焼ガスの吸入を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置：風上から作業し、風下の人を安全な場所に避難させる。

保護具及び緊急措置：周辺の住民に漏洩の生じた事を通報する等の適切な措置を行う。
漏出した場所の周辺にはロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は保護具（8曝露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触を避ける。

- 環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
- 封じ込め及び浄化方法・機材 : 危険でなければ漏出源を遮断し、漏出／流出を防止する。
- 二次災害の防止策 : 回収した漏出物は13廃棄上の注意に従って廃棄する。
- : 周囲の発火源を速やかに取り除き、着火した場合に備えて、消火剤を準備する。
- 万一、河川、公共水路等に流れ込んだ場合は、直ちに地方自治体の公害担当者に報告する。
- 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い 技術的対策 : 『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 安全取扱い注意事項 : 使用前に使用説明書を入手すること。
- : 取り扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- : 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
- : 眼、皮膚との接触を避けること。
- : 取り扱い後は手、顔等をよく洗うがいをする。
- : 使用済みの梱包袋等空容器は、一定の場所を定め集積する。
- : 袋の場合、破袋などにつながるような粗暴な取扱いをしない。
- 保管 技術的対策 : 特別に技術的対策は必要としない。
- 保管条件 : 湿気厳禁。
- : 子供の手の届かないように保管する。
- : 雨等のあたらない屋内倉庫に保管する。
- : 容器を密閉して保管すること。
- 容器包装材料 : 密閉可能な袋または容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

物質名	管理濃度	許容濃度	
		ACGIH (TLV-TWA)	日本産業衛生学会
シリカ	—	0.025mg/m ³ 結晶質シリカ (呼吸性画分)	0.03mg/m ³ (結晶質シリカ)
酸化アルミニウム	—	10mg/m ³	2mg/ m ³ (総粉塵)
酸化鉄	—	5mg/m ³	4mg/ m ³ (総粉塵)
二酸化チタン	—	10mg/m ³	4mg/ m ³ (総粉塵)

- 設備対策 : 粉じん則に従い局部排気装置、除塵器等を設置する。
- 呼吸器の保護具 : 状況に応じて防塵マスクを着用する。
- 手の保護具 : 状況に応じて保護手袋を着用する。
- 眼の保護具 : 状況に応じて防塵メガネを着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 皮膚の露出しない長袖作業衣を着用する。
- 衛生対策 : 取り扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態 形状 : 固体(粒状)
- 色 : 赤色
- 臭い : 無臭
- 融点、凝固点 : データなし
- 沸点、初留点及び沸点範囲 : データなし
- 可燃性 : 不燃性の固体
- 爆発下限界及び爆発上限界 : データなし
- ／可燃限界
- 引火点 : 不燃性の固体
- 自然発火点 : 不燃性の固体
- 分解温度 : データなし

PH	: データなし
動粘性率	: 非該当
溶解度	: 水。有機溶媒に不溶
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: 2.25~2.70 (g/cm ³)
相対ガス密度	: 非該当
粒子特性	: データなし
粘度	: 非該当

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の状態では安定である。
安定性	: 通常の状態では安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸、フッ化水素と反応する。
避けるべき条件	: 粉じんの拡散。
混触危険物質	: 強酸、フッ化水素。
その他	: データなし。

11. 有害性情報

急性毒性 経口	: 分類できない
経皮	: 分類できない
吸入	: 分類できない
皮膚腐食性/刺激性	: ヒトで発赤が生じ、緩慢な刺激性がある (ICSC(J) (2004)、IUCRID(2000)) から区分2。(酸化鉄) 含有量1%以上10%未満のため区分3に分類。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: ヒトで腐食性(IUCRID(2000))、よって区分1。(酸化鉄)
呼吸器感受性/皮膚感受性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 人間に対して発がん性があると判断できる。 本CAS番号が示す物質群はシリカ (SiO ₂) で、シリカの全形態が包含される (ECETOCJACC No. 51 (2006))。すなわち、本物質群には結晶質シリカが含まれ、その発がん性分類結果が適用可能と考えられることから、本項は区分1Aとした。 (シリカ)
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 上気道刺激性(区分3)。(酸化アルミニウム) シリカゲル (CAS番号: 112926-00-8) は気道刺激性があるとの報告 (SIDS (2006)、ECETOCJACC (2006)) から、区分3(気道刺激性)とした。(シリカ)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 酸化アルミニウムの職業暴露により、肺に腺維症が認められた(区分1)。 (酸化アルミニウム) ヒトにおいて、石英、クリストバライトでは珪肺症が報告されている。また、実験動物においても石英、クリストバライトで線維形成性があることが報告されており、そのほか、石英では自己免疫疾患、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性、溶解シリカで金属ヒューム熱のような回帰熱の報告がある (ACGIH (7th, 2006))。したがって、区分1(呼吸器、免疫系、腎臓)とした。(シリカ) 区分1(呼吸器)に、区分1(肺)を区分1(呼吸器系)として統合。
誤えん有害性	: 分類できない

12. 環境影響情報

生体毒性/水性環境有害性 短期(急性)	: 分類できない
生体毒性/水性環境有害性 長期(慢性)	: 分類できない
残留性・分解性	: 分類できない
生物蓄積性	: 分類できない

- 土壌中の移動性 : 分類できない
 オゾン層への有害性 : 分類できない
13. 廃棄上の注意
- 残余廃棄物 : 家庭用廃棄物、ごみ又は他の固形廃棄物と一緒に廃棄しないこと。
 排水溝に廃棄しないこと。
 廃棄物の処理は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
 特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。
- 汚染容器及び包装 : 有害廃棄物として廃棄すること。
14. 輸送上の注意
- 国連番号 非該当
 国連分類 非該当
 国際規制 : 海上規制情報 非危険物
 航空規制情報 非危険物
 国内規制 : 陸上規制情報 非危険物
 海上規制情報 非危険物
 航空規制情報 非危険物
- 特別安全対策 : 輸送の際は容器に漏れのないことを確かめ、水濡れ、破袋に注意し、転倒・落下等による損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。
15. 適用法令
- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条）
 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）
 政令番号 第165-2(シリカ) 第189(酸化アルミニウム) 第192(酸化鉄)
 第191(酸化チタン)、
- 消防法 : 非該当
 じん肺法 : 第2条施行規則第2条別表 粉じん作業
 PRTR法 : 非該当
16. その他の情報
- 参考文献 : 使用原料のSDS
 記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて製作しており、新しい知見により改定されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって必要で安全な取扱いを決定するには、使用者がその責任においてこの情報の利用をご決定下さい。
 記載内容は情報提供であって保障するものではありません。